

研究背景・目的

高齢者の増加 介護者の減少・高齢化

高齢者の日常活動を音環境で支援することで健康寿命の延伸の試みが行われている

↓ ○時間感覚 ○短期記憶

高齢者の自立&介護者のゆとり創出のため機能的な音により行動変化を促す必要

言語的な音(音声)ではなく
非言語的な音(旋律)の活用

1. 時間感覚, 短期記憶の支援に適した機能音の主観と客観評価および分析に基づくデザイン手法の開発
2. 行動変化を促進したか実証実験を行い機能音の有効性の検証



研究内容

機能音の評価

主観評価 × 客観評価

- ・分類評価法
- ・SD法

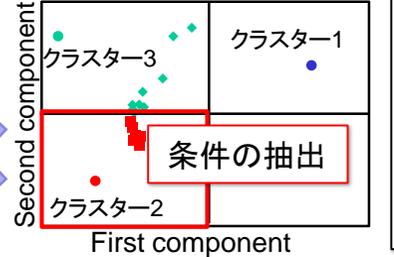


- ・心電計測
- ・脳血流測定



デザイン手法の分析, 開発

デザイン条件の把握



- 旋律のどのパラメータが重要?
- ・リズム
 - ・音色
 - ・調子
 - ・繰り返し

条件をもとに機能音をデザイン
→デザイン手法の妥当性検証

日常生活の支援に適した機能音を把握

機能音の実証実験

○老人ホームの高齢者を対象とした機能音による行動変化評価

- ・Vitality Index
- ・チェックシート



機能音による行動変化
促進の有効性検証